


# 活動成果報告書

令和7年度（第29回）「チヨダ地域保健推進賞」

|   |  |
|---|--|
| 活動テーマ<br>「小学6年生のためのがん教室」の実施について   |  |
| グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)<br>土浦市保健福祉部健康増進課<br>代表者：保健師 原部みゆき   | 写真掲載カ所<br> |
| 勤務先：土浦市役所<br>所 属：保健福祉部健康増進課<br>所在地：〒300-0812<br>茨城県土浦市下高津二丁目7番27号<br>TEL：029-826-3471<br>FAX：029-821-2935 |  |

## ◇活動方針

学習指導要領の改正により、小学校では令和2年度から「がん教育」が必修化された。また、健康日本21（第3次）においては、新たに取り入れられたライフコースアプローチの観点からも、幼少期からの生活習慣や健康状態は、成長後の健康に大きな影響を与えることから、こどもの健康を支える取り組みの重要性が示されている。特に、学童期は生涯を通じた健康づくりのスタートとなる重要な時期であり、健康教育の充実など積極的な取り組みが求められることから、若い世代ががんについて正しい知識を身につけ予防する取り組みとして、学校での健康教育の必要性が明らかとなった。

そこで本市では、文部科学省や茨城県が作成したがん教育教材を活用し、学校と連携した健康教育を実施することとした。がんについて正しく学ぶ機会を提供することで将来的な健康につなげるとともに、命の大切さについて考えてもらうことで、自分自身も周りの人も大切にできる人に成長できるよう支援する。

## ◇活動内容とその成果

### 1 学校（養護教諭）との打ち合わせ

#### (1) がん教育の目的の共有

- ①がんについて正しく理解することができる。
- ②健康と命の大切さについて主体的に考えることができる。

#### (2) 使用資材、講話内容、言葉の使い方についての確認。

#### (3) 家族にがん患者がいる児童への配慮を要するため、学校での対応等の現状について確認。

### 2 講義構成・資料作成

- (1) 学習指導要領や文部科学省作成の資材等を参考に、45分授業に合わせた内容で講義内容を構成し、映写用スライドにて資料「6年生のためのがん教室」（図1）を作成した。

(図1)



# 活動成果報告書

## (2) 資料作成、講話の工夫、配慮等

- ①導入：リアクションは大歓迎！ 不安を感じた時は無理せずに退席してもよいことを伝える。
- ②がん罹患の現状：クイズ形式にし、興味を持ってもらう。
- ③「がん」とは：アニメーション機能を多用し、分かりやすく作成。
- ④原因と予防：原因を説明し、それをもとに予防方法について児童自ら考える時間を設ける。（図2）
- ⑤がん患者の体験談：文部科学省作成の映像教材の活用。
- ⑥まとめ：命の大切さについて伝える。講義を聞いたうえで分からないことや不安なことがあれば、大人（担任や家族など）に話すよう伝える。
- ⑦個人ワーク：「わたしからのメッセージカード」（県作成資材）を活用。保護者へのメッセージや自分の目標など、自ら考え文字にして意思表示をする。作業が進まない児童には、保健師や担任等が声をかけ、児童の考えを引き出す。（図3）
- ⑧質問等：当日や後日、質問があれば丁寧に対応する。

## 3 実施

各学校の状況や要望に合わせて柔軟に対応し開催した。

- ・クラス別に各教室での実施
- ・学年で集まって体育館での実施
- ・児童主体の集会の一部としての実施 など

## 4 反応等

- ・がん予防について考える時間は、がんの原因から考えた予防方法を積極的に回答できていた。
- ・個人ワークでは。「お父さんにタバコをやめてもらう」「親に検診に行ってもらう」「予防接種を受ける」「早寝早起きをしてごはんをしっかり食べる」「好き嫌いせず食べる」「運動する」など、全員がメッセージカードを作成できていた。（図4）
- ・担任や養護教諭からは、外部講師は特別感があり児童がとても関心をもって話を聞いていた、と好評であった。
- ・後日、養護教諭を通して「がんの種類と症状について」「小児がんについて」等の質問があり、資料を添えメール回答した。

(図2)



(図3)



(図4)



# 活動成果報告書

## 5 実績

| 年度    | 実施校数及び受講人数                              |
|-------|---|
| 令和4年度 | 小学校2校（6年生99名）                           |
| 令和5年度 | 小学校5校（6年生307名）                          |
| 令和6年度 | 小学校4校（6年生231名）、中学校1校（9年生79名）            |
| 令和7年度 | 小学校3校（6年生169名）、<br>就労支援施設1か所（利用者・職員35名） |

### ◇今後の計画

- ・がん教室の最後は「今日学んだことを家族と話してみましよう」と締めくくっている。がん教室の個人ワークで作成した「大切な人へのメッセージカード」を渡しながら、各家庭でがんについて会話をすることで、保護者のがん検診受診や生活習慣の改善につながることを期待できるため、今後も学校への事業周知に努め、連携して実施していきたい。
- ・6年生のみならず、卒業間近の中学生や就労支援施設で働く成人など、対象の幅を広げて実施した。学校や地域との関わりは、地域保健において欠かすことのできない貴重な機会であり、保健師が担当地区の小学校とつながりを持つことは、地域住民の疾病予防・健康増進に向けた連携・協働の強化へつながると期待している。
- ・本市では、令和7年度から健康増進計画（第4次）を開始した。計画の目標達成を目指すにあたり、若い世代への健康教育は重要な手段であるため、今後も幅広く柔軟に本事業を継続していきたい。